



北部地区医師会会員の
一致団結にむけて取組ん
でいます。



北部地区医師会長
大城 修 先生

P R O F I L E

Q1. この度は、北部地区医師会長就任おめでとうございます。会長に就任されてのご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

北部地区医師会が社団法人として法人化を成し遂げた昭和57年の頃から長く理事として運営に携わってきました。副会長も長く務めてきましたが、医師会病院や北部看護学校など多くの事業を運営する当会の会長職は率直に言ってハードなスケジュールの中で、非常に責任も大きいと感じております。早急に解決しなくてはならない難しい課題も次から次へと飛び込んできます。就任直後は、会長職務のため診療所を休診にする日が多くなり、不安の毎日でしたが、現在は落ち着きを取り戻し、会長職務にも少し慣れつつあります。会長に就任した感想としましては、不安を多く抱えた状態での船出でした。しかし理事役員及び監事の先生方をはじめ、医師会員の先生方の多大なご支援、ご協力を得て、大変感謝しております。心強いスタッフのおかげもあり、安心して職務に当たる事ができていると思います。今後は医師会病院の経営の安定と北部地区医師会の設立当初からの目的として掲げてきました、「地域医療の充実を図る」という理念に基づき、新たな時代にも対応した北部地区独自の医療サービスの体制の確立を目指して参りたいと思います。

昭和52年03月～	沖縄県立名護病院勤務
昭和55年03月	(耳鼻咽喉科開設)
昭和55年06月～	
現在まで	大城耳鼻咽喉科医院を開設
昭和55年06月～	
平成20年03月	沖縄県北部農林高等学校校医
昭和55年06月～	
昭和59年03月	社団法人北部地区医師会理事
昭和59年04月～	
平成09年03月	社団法人北部地区医師会副会長
平成05年04月～	
現在まで	北部看護学校運営委員
平成09年04月～	
平成16年03月	社団法人北部地区医師会理事
平成16年04月～	
平成20年03月	社団法人北部地区医師会副会長
平成20年04月～	
現在まで	社団法人北部地区医師会会長

Q2. 県内の医師会としては唯一、病院を経営されておりますが会長としての役割についてお聞かせ下さい。

北部地区医師会では地域会員が利用できるようにと設立した開放型病院です。

具体的には手術場や入院ベッドの活用、診療

所ではできない検査など患者さんの紹介、逆紹介を活発に行う共同施設利用の概念がありました。これは厚生労働省が「地域医療支援病院」の許認可制度として、医療費の改善にも繋がるよう政策を打ち出したものと内容は同じであり、当会では随分前からこの流れを理想のひとつとして病院設立を決めたものです。しかし北部地区では人財の流出が今も解消されぬまま、設立当初は今以上に医療スタッフの確保という大きな課題に直面していました。これが最大の要因となり安定的な経営が続けられず、赤字体質の病院運営が長く続いたものです。人財の確保は今も避けられない大きな課題のままであり、その状況下で色々と試行錯誤を経て、ようやく現在は単年度の医業収益が黒字を出せる病院となっています。まだまだやるべきことは山積していますが、会長としての役割につきましても、引き続き医師会会員には病院へのサポートをして頂くようお願いを続ける事が今後も肝要であると認識しています。私自身、病院関連の会議や行事に招かれ、日々忙しい毎日を送っておりますが、医師会のスケールメリットが十分に反映されるように会長の役割は非常に重要なポストです。一日も早く会員が利用しやすい環境を整え、北部の力をひとつに集める当初の理想を追い求めながら地域医療の充実に努めることが求められていると思います。

Q3. 北部救急ヘリ再開への支援活動が話題となっておりますが医師会長としてのご意見をお聞かせください。

北部地域の救急搬送時間が他の地域に比べ、非常に格差があることは大きな課題でありますし、北部医療の充実に図るための取り組みを開始して行かなくてはなりません。北部救急ヘリ(MESH)は昨年6月より試行事業として始めましたが、医師会病院の財務事情から予算の捻出が困難となり一時休止をしている所です。全国ドクターヘリの配置を推進する特別措置法は、先ず都道府県による救命救急センターの許認可を受けている必要があります、残念ながら救命

救急センターの設置は北部地区へは見送られている関係上、我々地域はドクターヘリ設置の補助制度は「対象外」となっているのが現状です。そのため今、NPO法人MESHヘリサポートを通して多方面より基金を募っている所があります。公的資金に頼らない北部独自のシステムが構築されることが望ましいとは思いますが、高額な費用が必要なドクターヘリを今後どのように再開させるかは、行政及び関係する各施設共に足なみ揃え、医師会単独で行えなくとも「北部独自の救急ヘリ搬送システム」なるものを目指した、創意工夫を示すことが必要であると考えております。そのためには、県立北部病院との救急連携なども重要なポイントになると思います。引き続きMESHヘリサポートへのご支援を宜しくお願いいたします。

Q4. 本会や日本医師会に対するご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

以前より、北部地区への救命救急センター設置に関するご提案を沖縄県福祉保健部へ要望してきました。これに対する県のご回答はすでに本島内4箇所に設置された救命救急センターで充足されているとの認識であり、医療計画にも基づいたもののご回答を頂いております。しかし救命救急センターの設置は対象人口など国が示す基準が満たされていないにもかかわらず、広域にわたる北部特有の事情等を勘案して頂き、診療科も特化させるなどの柔軟な考えをもって配慮してほしいと思います。昨今は観光スポットの多い北部でもあり、定住人口では計れない救命医療のニーズがあると思います。また観光を産業の柱としている沖縄県としても整備に着目して置いてほしいと思います。先にも述べましたが北部の人財の確保に繋げるためにも北部の環境改善にむけて協力して頂きたいと切に願うものです。是非とも引き続き再考してほしいと思いますので、広く皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

Q5. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

小さい頃から負けず嫌いで、他人にできるは自分にも必ずできる、できないのは努力が足りないからだと思うようになり、「成せば成る」という諺が信念です。座右の銘は私の卒業した母校の辺土名高校の校訓でもある「誠、愛、勇」です。今の世の中は政治家、官僚、民間企業でも不祥事件が続発していますが、経営者、為政者にとって「誠を以って己を持すること」が必要でしょう。医者として患者さんに対して「愛を持って人に接すること」が大切なのはもちろんですが、家族や隣人にも「愛を以って接する事」が大切だと思います。今回の会長職を引き受ける際にも「誠」「愛」「勇」の思いが大きな支えになりました。

趣味はゴルフ、囲碁、麻雀です。会長になってからは回数が減っています。老化防止のためにも今後も続けて行きたいです。囲碁はボケ防止にもなるといわれますが、最近は碁会所に行けないので日曜日のテレビの囲碁対局は欠かさ

ず見るようにしています。夢は若い頃は、世界一周することが夢でしたが、時間がなくできなかったですね～。今からはちょっとね～（笑）。今は北部地区医師会の借金がなくなり、北部地区医師会と北部地域が健康長寿になることです。

健康法は小さい頃泳ぎをしながら体得した深呼吸を50～100回しています。これをすると頭がすっきりして、体の隅々まで酸素が取り込まれ活力が湧いてくる気がします。知人に言われた健康法1日1回は自分を褒め、1日10回は笑い、1日100回は深呼吸をし、1日1,000字を書き、1日1万歩あるく、という健康法にも共感します。また、ラジオ体操を毎日（現在は週3～5）することで、朝の体と頭を目覚めさせすっきりした気分を1日を始めるようにしています。

この度は、インタビューへご回答いただき、誠にありがとうございました。

インタビューアー：広報委員 石川 清和

